

第3部 安全保障の手段と方法 — ※安全保障とは、何を、何から、どのように守るのか。

<1> 安全保障の手段(MEANS) — 何で安全を担保するのか? (テキスト、第4章)

いかにして国の安全保障を多様な脅威、伝統的な脅威や非伝統的な脅威からどのようにして守るのか。

それを考えるためには、その国にはどんな手段があるのかが大事であり、それは国力の話になる。

1. 「国力」(national power)とは何か

パワーとは、国際関係において、国家、テロリストやNGOなどの他の主体を動かす影響力があるということである。

(1)「パワー(power)」の分類

パワー(力)(power) — 影響力(influence) 「国力」:(この場合)国際関係に影響を及ぼす力

※モーゲンソーの「国力の7要素」¹

※ハードパワー(hard power)²とソフト・パワー(soft power)(Nye)³

※スマート・パワー(smart power)(Nye & Armitage)⁴

モーゲンソーの7要素について。一つは地理。日本は島国であるが、アメリカは大陸。

天然資源があるかどうか。日本は工業力はトップクラスだが、工業力を維持するためのエネルギー資源は皆無に等しい。99.9%海外に依存している非常に脆弱な国である。

他には、国民が危機に接近したときに団結しやすい国民なのか、ばらばらになってしまうのかという国民性。

国民が戦争が起きたときに、戦争に行ってくれるのかという士気。

国の外交力。またそもそもの政府の質。

こういったものをモーゲンソーは挙げている。

しかし、最近現代は、リアリストはパワーというと、軍事力や経済力といったハードパワーに集中してしまうのだが、ナイさんのようなネオリベラルの人はそれ以外のものももう少しは大事なのではないかといっている。なのでハードパワーに対してソフトパワーという分け方にしたらどうなのかといっていた。

これは軍事力や経済力で威嚇したりするのではなく、アメリカの文化力、つまりハリウッドや、自由民主主義という価値観、そう言ったアメリカの文化力によって、別に軍事力や経済力を見せなくても他の主体は感化される、共鳴する。そういう力も大事なのではないか。そもそも冷戦は何で勝ったかという、もちろん核兵器とかもあるが、体制の競争の勝利というものもある。つまり、ソ連型の共産主義体制が負けて、自由民主主義が勝ったということもあるだろう。こういうことをナイさんが言い始めた。

(2) 様々な手段

軍事力

外交

経済力・経済的手段—経済制裁、輸出規制⁵、経済援助(政府開発援助ODA)

情報と技術 *情報=インテリジェンス(intelligence)

ソフト・パワー(文化力など)

軍事と経済はハードパワー。外交は両方にのなりうる。ソフトパワーには情報や高い技術力からくる文化力も含まれる。

しかし、最近、スマート・パワーが必要だといわれてきている。ナイさんが言ってる。ポスト9・11のアメリカを見て、冷戦後軍事力と経済力でアメリカが勝っている、いかにして世界の秩序を維持してアメリカがスーパーパワーであり続けるかについて出てきた言葉。9・11以後、イスラム原理主義や実態としての無差別テロなどに対しては、軍事力も大事だということでハードパワーが見直されてきている。しかし、それ

と同時にただむき出しの力ではイスラムの人たちはアメリカに向いてはくれない。なのでやはりソフトパワーも大事で、両方を併用した使い方が大事なのである。これがスマート・パワー。

日本について考えてみると、ある試算では2040年までには日本の経済力も落ち込み、逆に中国の台頭によって今までのG8先進国サミットのメンバーに中国が加わることになるだろうという話がある。しかし、これに対して福田首相は日本の存在感を危惧している。日本の存在感をどうやって改めて確立していけばいいのかが模索している状況である。

(1) 国力の設計図は？⁶ -21世紀の日本の国家像は？国際社会でどのような役割を果たすのか？

*Japan as a Power? What kind of Power?*⁷

大国(Big power)、小国(small power)、ミドルパワー・プラス(middle power-plus)?

Hard power+ soft power = Smart Power?

戦後平和主義は？吉田路線は？「能動的平和主義」？

この上の二つの疑問は結局、どのような国力をつけてゆくのかということにつながり、新しい設計図を作らないと日本はそのままマイナス要因ばかりが大きくなってゆくのではと危惧されている。

ただ中国が台頭するに当たって、日本をもう一回パワーとして見直そうという動きも見られる。

吉田路線は非軍事路線。

(2) 国家安全保障戦略は？ BY WHO? HOW?

・首相官邸・内閣府、日本版「国家安全保障会議」新設・・(J-NSC=National Security Council)

・総理懇談会「安全保障と防衛力に関する懇談会」報告書(通称「荒木レポート」)(2004年10月)⁸

>提言:新たな安保環境(脅威認識の多様化)

—>日本の安全保障の2つの目標と目標達成のための3つのアプローチ

—>「多機能弾力的防衛力」の構築—防衛計画大綱(2005年度以降)—>自衛隊再編

(3) 軍事力(軍事的手段)として自衛隊(SDF: Self-Defense Forces)をどうみるのか？

・世界の軍事力における自衛隊の位置、防衛費(対GDP比1%)

・自衛隊の再編・変容(07年1月、防衛省;国際協力業務を自衛隊の本来任務に格上げ)

・どのような役割と能力を与えるのか？